

都道府県立図書館での 医中誌Webの提供について

山下ユミ（京都府立図書館）

一般市民にとっての医療・健康情報

- 最新の信頼できる医療・健康情報
- 図書資料＋雑誌論文やデータベース等の情報

一般市民にとって一番身近な場所＝公立図書館

公立図書館における医学分野の資料の提供について

- 一次資料である医学雑誌等を十分に所蔵していない
- 所蔵している図書館につなげることができる
- 文献データベース提供
 - 検索結果から必要な文献を特定し、一次資料につなげる役割

京都府立図書館の状況 京都府立図書館

- 医中誌Webを契約
- 利用は多くはない理由

圧倒的な図書の利用 電子資料の存在感のなさ

本文を含まないデータベースへの信頼感の薄さ

OA文献等にリンクしていてもアクセス不可(現在は改善)

OA文献含め、Web情報のプリントアウトができない

図書館で複写をする根拠

• 著作権法第31条

図書館等においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館資料を用いて著作物を複製することができる。

- 一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部）の複製物を一人につき一部提供する場合
- 二 ..

Web上の情報の複写の可否

- 図書館資料＝図書館が所蔵する資料
- インターネット情報は、図書館が所蔵する資料かどうかという解釈

所蔵資料である→複写可

所蔵資料ではない→著作者の許諾が必要

他の図書館での状況の調査

- 京都府立図書館自主研究グループとして調査実施
- 時期: 7月初旬
- 対象: 医中誌Webを導入している都道府県立図書館 15館
- 方法: アンケート調査
送付→メール/郵送 回答→メール/郵送/FAX
- 全館から回答を得た

調査項目

◇ 医中誌Webに関して

- ・ 使用できる端末数
- ・ 契約している同時アクセス数／昨年1年間のアクセス数
- ・ 検索結果のプリントアウト入手は可能か
- ・ リンクしているEJの閲覧／プリントアウト入手は可能か
- ・ 活用促進のための講座実施
- ・ 利用者の属性

◇ インターネット端末での、Webサイトのプリントアウト入手

◇ 医学データベース提供にあたり工夫している点、問題点

端末数とアクセス数

- 医中誌Webが利用できる端末数 1～52台
- 契約している同時アクセス数 1～3
- 昨年1年間のアクセス数 0～450

※館によって取り方が異なる

医中誌Web検索結果のプリントアウト入手

- できる(有料) 15館
- できない 1館

リンクしている電子ジャーナル本文の閲覧

- 可能 5館
- 一部可能 3館
 OAのみ、CiNii・J-STAGE・J-GLOBAL等
- 不可 7館

リンクしている電子ジャーナル本文のプリントアウト

- 可能 2館
- 一部可能 3館
- 不可 10館

医中誌Webの講習会実施

- 講習会実施 5館(一般向け・医療従事者向け)
- 職員向け講習を実施 2館
- 講座等の中で紹介 2館
- 実施していない 6館

利用者の属性

- 一般 4館
- 看護学生・医療従事者 7館
- 調査していない 5館

インターネット端末のプリントアウト

- 可能 2館
※著作権法に違反していないか等のチェックあり
- 不可 13館

工夫している点、問題点①

医中誌Webは本文が見られないのが不便

- ・利用者から、書誌情報のみで本文が見られないのは不便だという意見があった
- ・論文本文を閲覧できないことを残念に思う利用者を見る
- ・抄録のみということをご存じでない利用者も多い。論文そのものを見ることができないことが残念。

工夫している点、問題点②

所蔵確認・本文入手が大変

- 当館所蔵の有無を確認するのに手間がかかる
- すぐに閲覧できない論文が多く、提供までに時間がかかる
- 所蔵していない資料もしているように見えてしまう
- 本文が見えないものも見えるものと同じように見える
- 本文のプリントアウトができないため、図書館で完結しない
- 他館に複写を申し込むとなると、申請書を手書きする必要がある
- 大学図書館等に複写依頼を出すのが、謝絶されることがある

工夫している点、問題点③ その他

- 職員自身が、医中誌Webの内容や操作法をわかっていないと感じる
- 医中誌刊行会への郵送複写を案内している
- パスファインダーによる利用促進を図っている
- 医学系のレファレンスで「シソーラス参照」が役に立っている

結果

- 約30%の都道府県立図書館で医中誌Webを提供している。検索結果のプリントアウトも、ほぼ入手できる
- 検索結果からリンクしているEJ等の閲覧ができるのは半数程度で、本文のプリントアウトが可能な図書館は1/3程度
- 医中誌Webの講習会実施はあまり多くない
- 利用者の属性は、看護師などの医療従事者も多いようである

結果

- 多くの図書館は、所蔵確認や文献取寄せに手間がかかると感じている
- 国内の公立図書館では、インターネット端末のプリントアウトを認めていない館が多く、今回の15館の中でも13館が認めていない

考察

- 医中誌Webは、都道府県立図書館において、その機能を十分に発揮しながら利用されているとは言えず、結果として、一般市民への医療・健康情報の提供も不十分になっていると考えられる
- まずは図書館員のリテラシーを高める必要がある
 - 医学分野における雑誌論文や電子ジャーナルの重要性
 - データベースの特性
 - 医中誌Webの検索結果から本文入手までの流れ

考察

京都府立図書館として(個人の意見として)

- 電子ジャーナルのプリントアウトを可能にしたい
- Web情報のプリントアウトも可能にできると良い
- 職員がデータベースを利用可能とするだけでなく、それぞれの特長を理解して使えるようにしたい
- 雑誌論文や複写依頼などへのハードルを低くしたい
- パスファインダーを作りたい
- リンクリゾルバがあると良い

